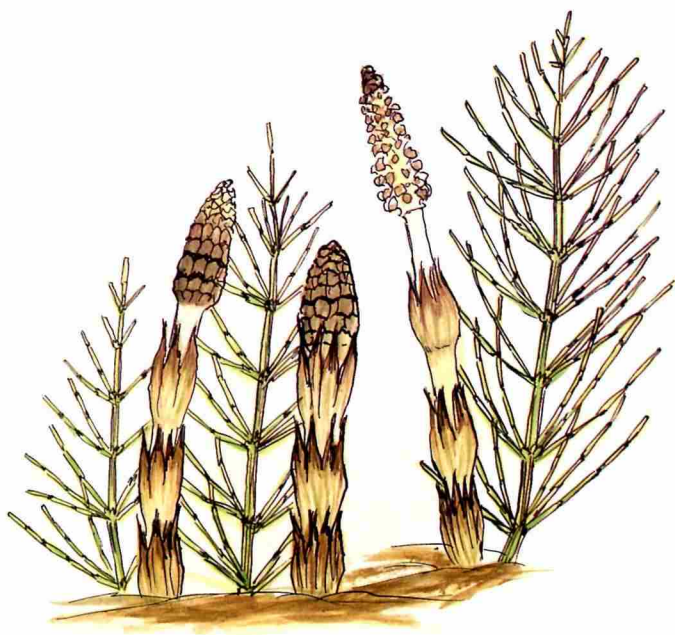


シダ植物



スギナ(ツクシ)

トクサ科

花期 ツクシは2月下旬～5月中旬 草丈 20～40cm



スギナはツクシの本体で、ツクシはスギナの花に当たりますが、シダに近い中間ですから胞子でふえます。ツクシの先端の六角形の割れ目から、緑色の胞子がこぼれ落ちます。胞子を顕微鏡で見ると、4本のようなものがあるが、しめると、くるくるとまき、かわくとのびるのがわかります、多年草で地下茎でもふえます。

スギナは日当たりの良い所ならどこにでも育ち、ツクシは土手のようなかわいたしゃ面によく出ます。ツクシは食用になります。

ゼンマイ

ゼンマイ科

草丈

60~100cm



4~5月ごろ、根こん茎からのびてきた葉けいはくるくると巻いて、白い綿毛をかぶっています。やがて綿毛は落ち、次第にのびて広がり、複葉まになります。

同じころ、胞子ほうしをつけるための葉の変形したものがでて、淡緑色たんりよくしよくから褐色かつしよくに変わり胞子を出します。

多年草たねんそうですから、冬は地上部かが枯れてしまいます。日当たりの良い原野や土手や、水路のそばの少ししめったところに育っています。葉ののびかけたものをつみとり、ゆでて加工し、食用にします。

ウラジロ

ウラジロ科

草丈 ~ 2 m



ややかんそうした所によく育つ、常緑の大型の多年草です。根茎からのびた葉は、褐色でかたい柄の先で二つに分かれて複葉となります。葉は冬も枯れず、年ごとにこの中央から新しい芽が出て、2段か3段くらいにまでなります。冬でも葉が緑色で元気であることや、葉の裏の白さを好んで、おめでたい正月のかざりにしています。

島熊山や千里中央公園の中のアカマツ林に見られます。

ウラジロはやや日かげに育ちますが、日当たりの良い所に育つコシダはウラジロより小さく、複葉できれこみがありません。

カニクサ

カニクサ科

草丈 つる性



つる性のシダ類で、地上部は冬になると枯れる多年草です。つる状の地上部は全部が一枚の葉に当たるので、長くのびて茎のように見えるのは葉の柄ということになります。先端に近いところの細かく分かれた葉には、胞子の入ったふくろが付き、ここから胞子がまき散らされます。緑地公園や泉丘、少路などの林の周辺や田やため池の土手でよく見られます。

カニクサという名前は、子どもがこのつるを使って、カニをとることがあるからだと言われています。また、胞子を集めて、かんそうして薬として使うそうです。

ワラビ

イノモトソウ科

草丈 1～2m



ワラビの若葉

シダの仲間ですが、日当たりの良い丘^{きゆうりょう}陵や野原によく育ち、公園や池や田の土手など、少し自然の残^かっている場所に多く見られます。周囲の木がしげ^かって日かげになると枯^{ほうし}れてしまいます。胞子は葉のへりにふくろ（胞子のう）に入った状態につき、胞子のうがはじけて、胞子がとび出すようになっています。

若葉はゼンマイと同じように、ゆでて食べますが、干したり、塩づけにしたりして、食用にします。根茎^{こんけい}は秋にほり出したものをくわいて水にひたし、デンプンをとります。むかしはこれを使って“わらびもち”を作りました。

イノモトソウ

イノモトソウ科

草丈 20~60cm



常緑の多年草^{たねんそう}で、葉は他のシダ類と同じように地面から直接生えま^はす。1枚の葉は羽状^{うじょう}に分かれ、トリの足のような形をしています。胞子^{ほう}がつく葉では、葉のふちが裏へおり返したようになり、その中に胞子のうが^{ほう}できます。

井戸の付近によく生える草という意味で、イノモトソウという名前が^はつきました。東豊中や長興寺など市内の少し古い家の石垣や水路の石組みなどにも、よく見られます。

オオバノイノモトソウはこれよりずっと大きく、葉のはばも広く、葉のじくに、はねがありません。

ヤブソテツ

オシダ科

草丈

30~90cm



常緑の多年草で、日かげで良く育ちます。葉はかたく、あまり細くない複葉です。葉の柄の下の方には黒色をした鱗片と呼ばれる毛のようなものがたくさんついています。胞子のうは葉の裏につきますが、上をおおっている胞膜と呼ばれるかさのようなものが、円形で赤褐色をしていしますので、葉を裏返して見ると茶色の丸いぼつぼつが並んでいるように見えます。

鑑賞用などで家の石垣や庭に植えられているので、よく見られるつやのある葉をもったものは、オニヤブソテツと呼ばれるものです。

ベニシダ

オシダ科

草丈 30~70cm



常緑の多年草で、ごくふつうのシダの葉の形をしています。若葉は赤紫色か赤褐色を帯びて美しく、ベニシダと呼ばれる理由となっています。おそく出た葉の裏には、胞子のうがつきます。

若い時の胞膜は紅紫色で、葉を裏返した時に、赤いぼつぼつがたくさん並んでいるように見えます。

島熊山や五郎谷の森の中では、自然に育っている状態を見ることができます。葉につやがあり、冬も緑を保っているため庭にもよく植えられています。

ノキシノブ

ウラボシ科

草丈 10~30cm



木の幹^{みき}や岩に生えるシダ類で、常緑の多年草^{たねんそう}です。黒褐色^{こくかつしよく}の茎^{くき}が、木の幹や岩の表面にはりつくようにのび、ここから刀の刃のような形をした厚み^{あつ}のある単葉が並んで出ます。日かげでしつ気の多い所を好みますが、乾きにも強く、かわくとしおれて、縮れるほどになります。雨にぬれると、またもとにもどります。

寺^{こぼく}の古木^{はかいし}や墓石に生えているのが見られます。

胞子^{ほうし}のうは葉の裏にもりあがった円形に集まり、2列に並んでつきます。家の軒^{のき}にも生えるので、ノキシノブと呼ぶようになりました。

原田神社のクスノキにはたくさん見られます。